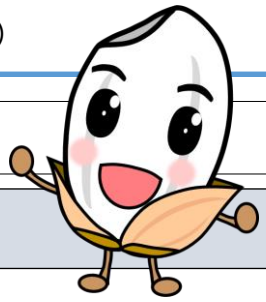
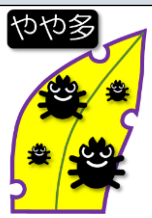
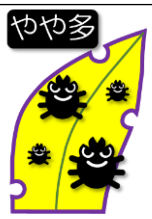
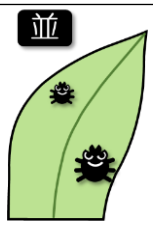
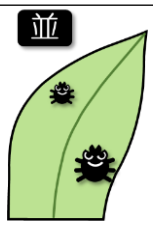
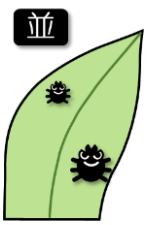
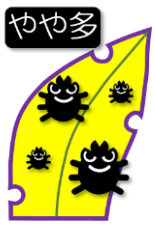
令和４年度　広島県病害虫発生予察情報　予報第３号（水稲）

令和４年７月13日発表（対象期間：令和４年７月中旬～ ７月下旬）



1-（1）　水稲病害虫の現況と予報（概要）

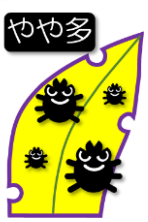
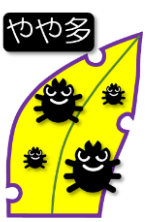
病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
葉いもち ※ 中北部とは， 北部，中東部，中西部， を合わせた地域です	※中北部			・置き苗は発生源になるので，ほ場外へ持ち出し処分しましょう。 ・育苗箱施用剤を処理したほ場でも，発生に注意してほ場の見回りを行ってください。 ・いもち病に弱い品種では特に注意しましょう。 ・発生が見られたほ場では，速やかに防除しましょう。 ・穂ばらみ期の防除を徹底し，穂いもちの発生を予防しましょう。
	南部			
紋枯病				・梅雨明け後に高温で経過すると感染が進み，発病株率が増加するので注意が必要です。 ・昨年，発生が多かったほ場は注意が必要です。 ・防除を行う判断の目安は，穂ばらみ期の発病株率が，早生品種で10%以上，中生品種で20%以上になった時です。
セジロウンカ				・穂ばらみ期の防除を徹底しましょう。 ・一部の飼料用米では，特に注意しましょう（北陸193号，タカナリなど） ・飼料用米では，「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル（農林水産省ＨＰに移動）」を参考に防除して下さい。 ・要防除水準；幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ				・早期コシヒカリなど４月中～下旬田植えの品種や，５月上～下旬田植えの品種で箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合，ほ場での発生を確認し，発生が見られた場合は防除を行いましょう。
コブノメイガ				・防除時期：穂ばらみ期，穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上，中生以降の品種で被害株率２０%を超える場合，粉剤・液剤は発蛾最盛期の７日後，粒剤は発蛾最盛期に追加で防除を行います。
斑点米カメムシ類				・早生は出穂が早いため防除時期を逸しないようにしましょう ・出穂期近くになっての畦畔などの除草は，カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控え，中生では出穂２週間前までに除草を終えましょう。 ・予察灯（呉市安浦町）のアカスジカスミカメの誘殺は，平年に比べてやや少なくなっています。

1-（2） 水稲病害虫の現況と予報（詳細）

① 葉いもち

予報の根拠

（＋）:多発要因，（±）:平年並，（－）:少発要因

	現況	予報		現況	予報
中北部			南部		

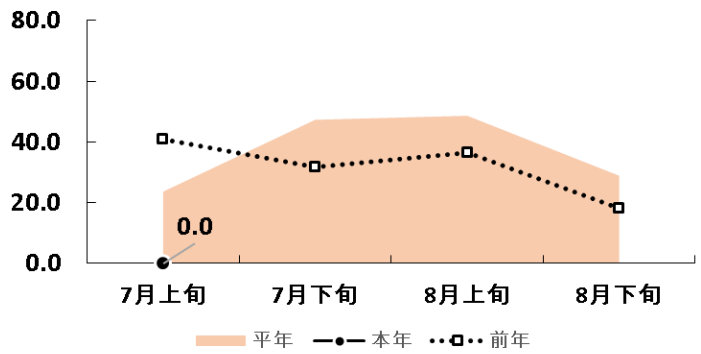
●7月上旬巡回調査では，発生は見られませんでした（±）。しかし，苗いもちを発生源としたずり込みほ場が確認されています（＋）。また，日夕の寒暖差により露が付きやすくなるため，山かげや川の近くのほ場でいもち病の発生が見られています（＋）。
●中国地方１か月予報では，７月前半は雨や曇りの日が多く，いもち病の発生を助長します（＋）。

【防除上の注意事項】
●置き苗は発生源になるので，ほ場外へ持ち出し処分しましょう。
●育苗箱施用剤を処理したほ場でも，発生に注意してほ場の見回りを行いましょう。６月以降の田植で遅効性の抵抗性誘導剤を使用した場合，効果が劣ることがあるため，いもち病に弱い品種では特に注意が必要です。
●葉いもちの防除は，初発確認後の早い時期に防除効果が高くなります。発生が見られたほ場では，速やかに防除しましょう。
●穂ばらみ期の防除を徹底し，穂いもちの発生を予防しましょう。
●以下の「ひろしま病害虫情報　病害虫図鑑（普通作物）」もご覧下さい。

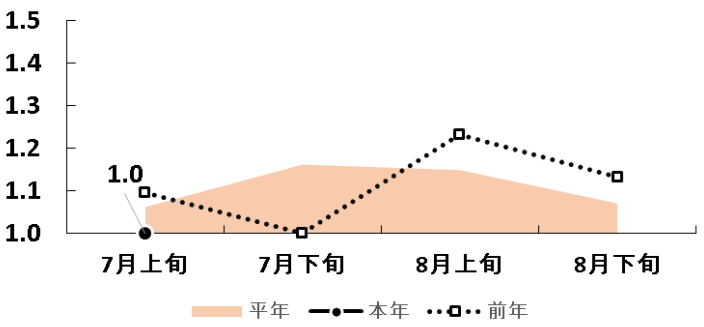
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html

【巡回調査データ】

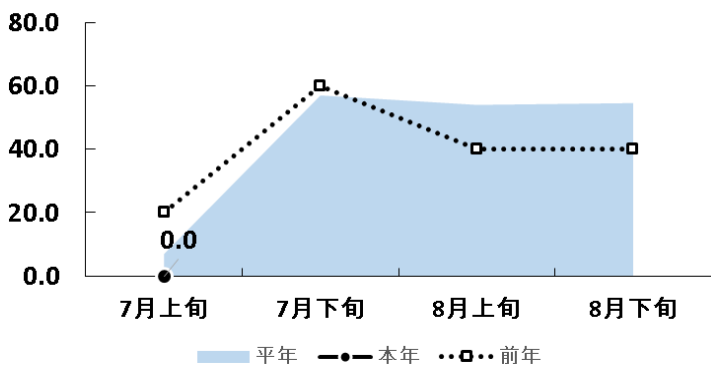
葉いもち　発生地点率（中北部　22地点）



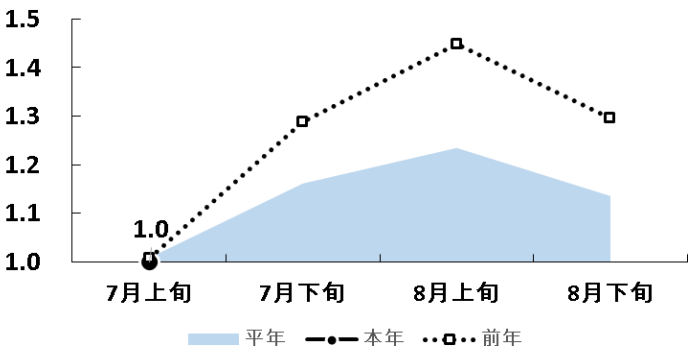
葉いもち 発生程度（中北部　22地点）



葉いもち　発生地点率（南部　5地点）



葉いもち　発生程度（南部　5地点）



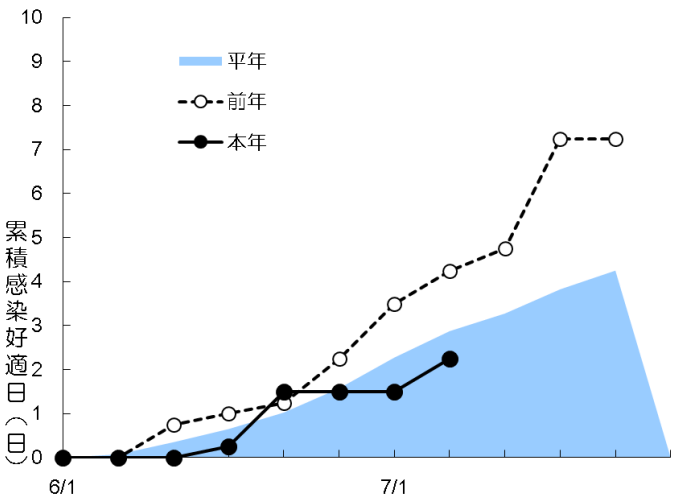
BLASTAMによる「いもち病の危険度」の推定

地帯別「いもち病の感染好適日」の累積日数

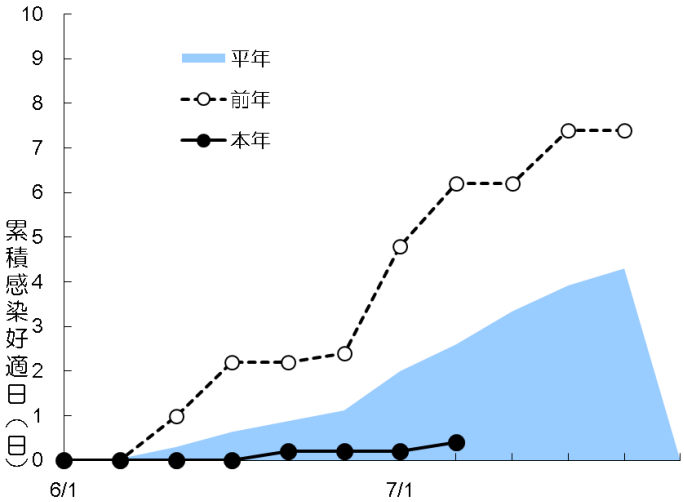
※ いもち病の発生しやすさを予測するシステム：BLASTAM（ブラスタム）を用いて，気象庁のアメダスデータ（気温，降水量，風速，日照）から，葉面の湿潤時間を計算し，いもち病が発生しやすい条件となる日：感染好適日を推定しています。

※ 累積感染好適日とは，BLASTAMによる感染好適日を累積したものです。値が大きい程いもち病の発生リスクが高いと予想されます。

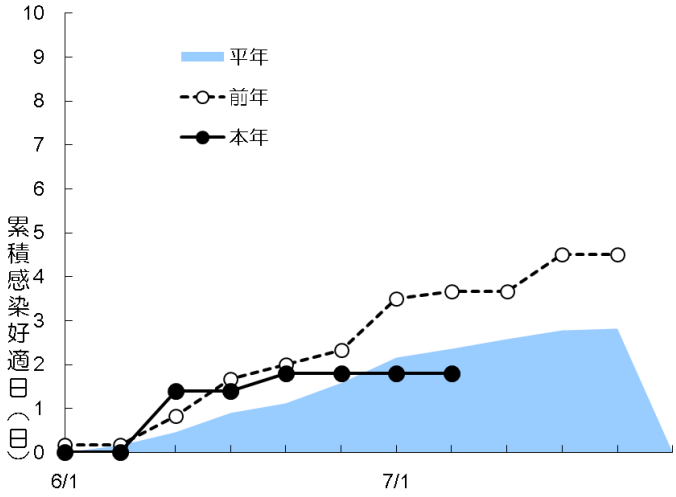
※ 7月2～4日の期間は通信障害があったため，７月１半旬以降のデータについては，実際よりも低く推定されている可能性があるので注意してください。



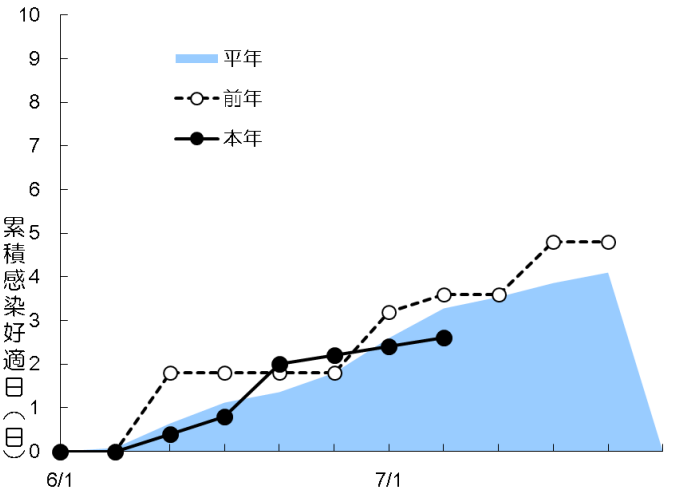
感染好適日の累積日数（中東部地帯）



感染好適日の累積日数（北部地帯）



感染好適日の累積日数（南部地帯）



感染好適日の累積日数（中西部地帯）

② 紋枯病

予報の根拠	現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●7月上旬巡回調査では，発生が見られませんでした（±）。 ●中国地方１か月予報では，７月前半は気温は高く推移し，平年と同様雨や曇りの日が多く，紋枯病の発生を助長します（＋）。	少	並

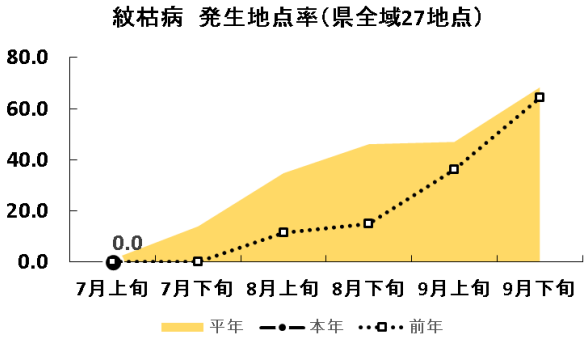
【防除上の注意事項】

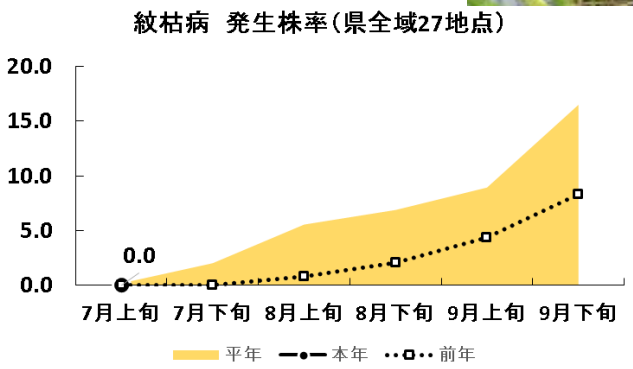
●高温，多湿を紋枯病菌は好みます。夏期高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは防除を徹底しましょう。

●薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期。薬剤は，病患部の葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。

●要防除水準；穂ばらみ期の発病株率が，早生品種で10%以上，中生品種で20%以上。

【巡回調査データ】





③ セジロウンカ

予報の根拠	現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●7月上旬巡回調査では，少発生でした（－）。 ●予察灯での誘殺数は，６月３半旬に１頭（東広島市），６月６半旬に１頭（呉市）（－）。予察田（呉市）では７月２半旬に２頭確認されました（－）。 ●中国地方１か月予報では，平均気温が高く増殖に好適です（＋）。	少	少

【防除上の注意事項】

●イネをよく観察して，飛来した成虫の早期発見に努めましょう。飛来直後はおもにイネ株の上層に生息し動きは活発であるが，日がたつと株元付近にいることが多く見られます。

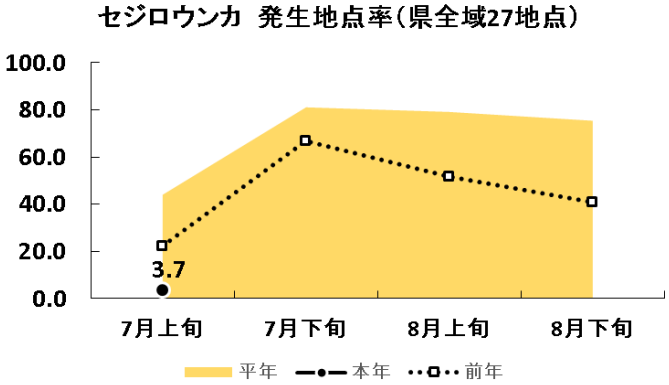
●要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に１０頭/株以上

●ウンカ類の払落し調査方法については，「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧下さい。

長翅型成虫

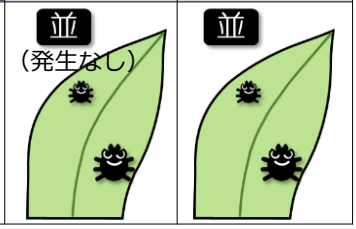
中老齢幼虫

【巡回調査データ】



④ トビイロウンカ

予報の根拠		現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●7月上旬巡回調査では，確認されませんでした（－）。 ●予察灯，予察田ともに確認されませんでした（－） ●中国地方１か月予報では，平均気温が高く増殖に好適です（＋）。	並 （発生なし）	並



【防除上の注意事項】

●早期コシヒカリなど４月中～下旬田植えの品種では，箱施用剤の効果が弱まっている可能性があるため，ほ場での発生を確認し，発生が見られた場合は防除を行いましょう。

●５月上～下旬田植えの品種では，ウンカ類に卓効を示し長期残効するトリフルメゾピリムなどを含有する箱施用剤を処理している場合，本虫が急激に増殖する可能性は低いと考えられます。

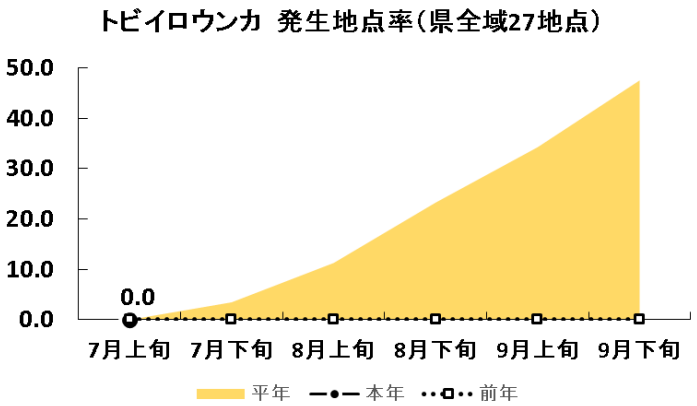
●５月上～下旬田植えの品種で，箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合，ほ場での発生を確認し，発生が見られた場合は防除を行いましょう。

●ウンカ類の払落し調査方法については，「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧下さい。

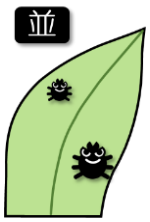
長翅型成虫

中老齢幼虫

【巡回調査データ】



⑤ 斑点米カメムシ類

予報の根拠	現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●６月下旬における牧草地すくい取り調査では，平年並みの発生でした（±）。 ●アカスジカスミカメの７月第１半旬までの予察灯（呉市）への誘殺数は，平年に比べ最も多いです（＋）。 ●中国地方１か月予報では，向こう１か月の平均気温が高く，発生を助長します（＋）。		

【防除上の注意事項】

●斑点米被害は，カメムシ類の成虫または幼虫がイネの出穂期以降に穂を吸汁し，吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで起きます。したがって，防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。但し，近年沿岸地域を中心に発生・被害が拡大しているイネカメムシについては，穂ばらみ期の水田に侵入することが確認されており，多発時には出穂前の防除も実施しましょう。

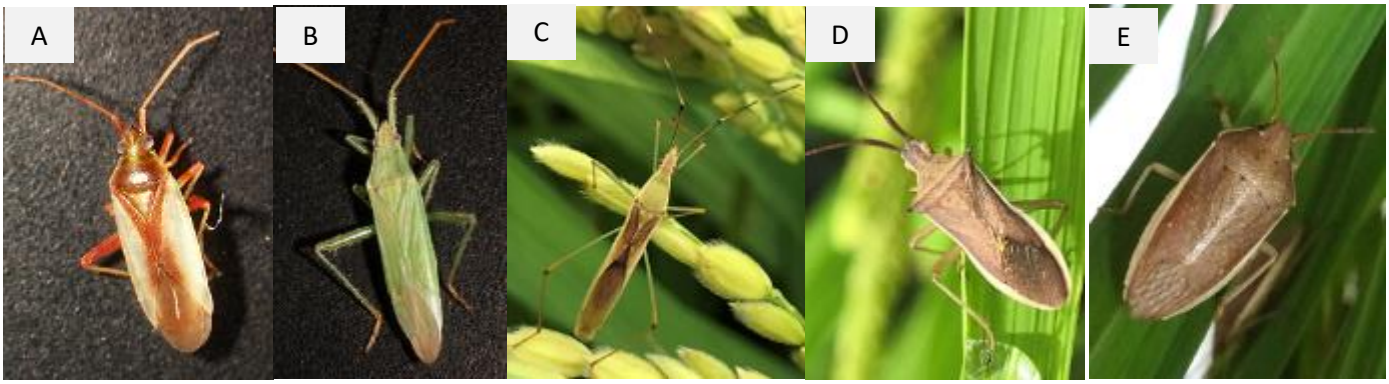
●早生は，出穂が早いため防除時期を逸しないようにしましょう。

●出穂期近くになっての畦畔などの除草は，カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂２週間前までに除草を終えましょう。

●要防除水準：（カスミカメ類）４頭以上／２０回振り，（その他加害種）２頭以上／２０回振り

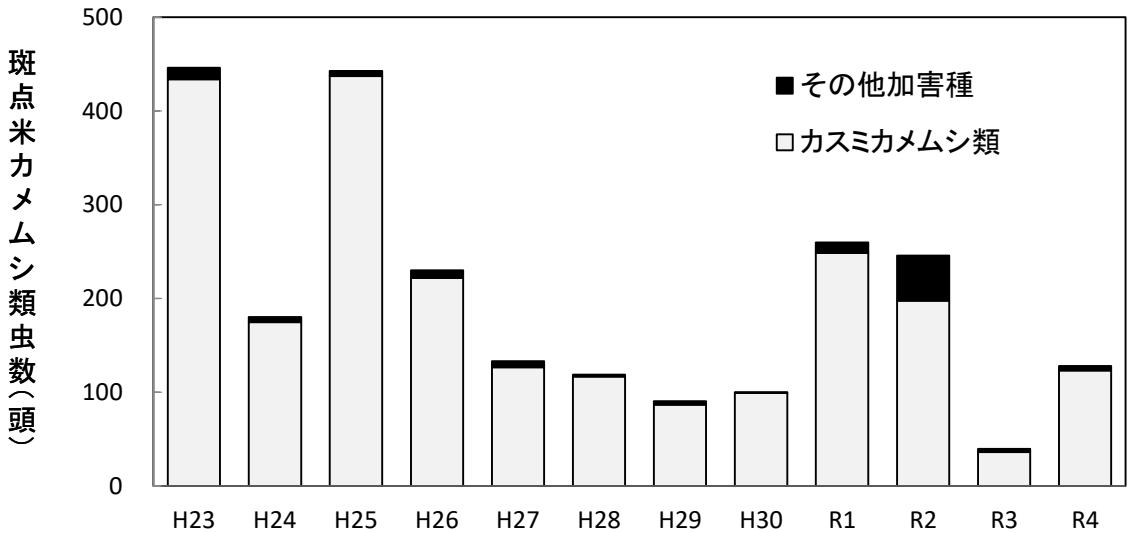
●防除時期：（カスミカメ類）出穂期～その１０日後に１～２回。
（その他加害種）出穂７日後～１４日後に　１～２回。
※イネカメムシは出穂期とその10日後に防除することが効果があると言われています。

●斑点米カメムシ類の調査方法については，「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧下さい。



A:アカスジカスミカメ，B:フタトゲムギカスミカメ，その他加害種C:クモヘリカメムシ，D:ホソハリカメムシ，E:イネカメムシ

斑点米カメムシ類すくい取り調査結果



※発生頭数は捕虫網による牧草地での20回振りすくいとり調査による

※カスミカメムシ類はアカスジカスミカメなどの小型のカメムシ類，その他加害種はホソハリカメムシなどの大型のカメムシ類。

2　その他の病害虫の発生状況

病害虫名	現況	防除状の注意事項
ヒメトビウンカ		出穂前後の防除を徹底する。また，縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ		穂ばらみ期防除を基本に実施しましょう。
コブノメイガ		中生以降の品種で被害株率２０％を超える場合，粉剤・液剤は発蛾最盛期の７日後，粒剤は発蛾最盛期に追加で防除を行いましょう

3　中国地方１か月予報

（広島地方気象台７月７日発表，７月９日から８月８日までの天候見通し）

●期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
●向こう１か月の平均気温は、高い確率６０％です。
●週別の気温は、１週目は高い確率８０％です。２週目と３～４週目は高い確率５０％です。

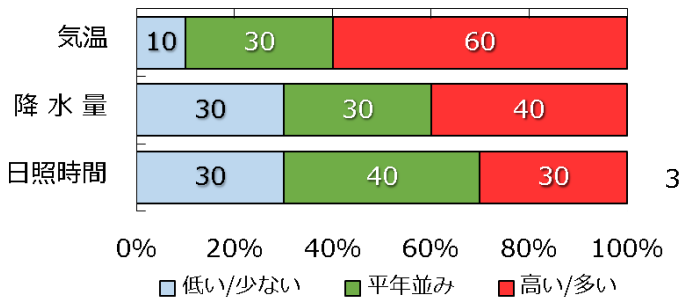


図1．向こう１か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率（%）

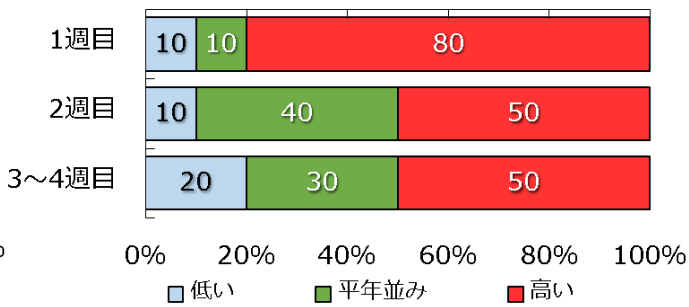
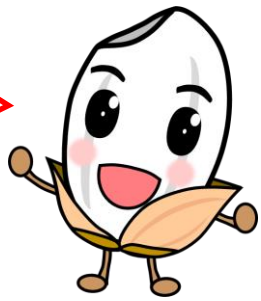


図2．向こう１か月の気温経過の各階級の確率（%）

4　農薬危害防止運動について

６月１日から８月３１日まで，**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は，容器のラベルをよく読んで，使用方法や注意事項を守り，農薬による危害と事故を防ぎましょう。



用語説明について

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は，「多，やや多，並，やや少，少」の５階級に区分しています。区分は，原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ，相対比較しています。

「多」　　：　１番目（最多年）と同程度以上
「やや多」：　２～３番目と同程度
「並」　　：　４～７番目と同程度
「やや少」：　８～９番目と同程度
「少」　　：　10番目（最少年）と同程度以下

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報　検索

掲載アドレス↓
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/_

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
QRコードはこちら　→

ひろしま病害虫情報 メルマガ登録はこちら
ひろしま病害虫情報 メール配信はこちら

お問合わせ先
広島県西部農業技術指導所　植物防疫チーム
〒739-0151　東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）